



## 天使の声

2月15日に、3年B組にて、校長が道徳の授業を行いました。教材名は「天使の声」です。この教材は、彩の国の道徳「心の絆」に掲載されている教材で、東日本大震災を扱った教材です。「心の絆」には、これ以外にも「語り継がれる教訓」「極限の救出劇」と多くの東日本大震災を扱った教材が掲載されています。

主人公の遠藤未希さんは、宮城県の南三陸町の職員で、当時危機管理課で勤務をしていました。地震が起きた時は、海岸から500mほど離れたところにある「防災対策庁舎」にいました。そして、「大津波警報が発令されています。急いで高台に避難してください。早く、早く、避難してください。」と何度も、何度も、防災無線のマイクを握り、町民に避難することをアナウンスしました。当時の予測としては、



津波の高さは6m。防災庁舎の高さは、屋上に行けば12m。遠藤さんは、ぎりぎりまでアナウンスしても、十分避難できると思っていましたが、実際の津波の高さは、20m。あっという間に津波は防災庁舎を飲み込み、遠藤さんを含めたくさんの職員は津波に流されてしまい、命を落としました。しかし、この遠藤さんの防災無線を聞いて、急いで避難した町民がたくさんおり、「あの放送がなかったら、避難が遅れたかもしれない。」「あの放送を聞いて無我夢中で避難をした。あの放送が私を救ってくれた。」と多くの町民から感謝され、遠藤さんの葬儀にはたくさんの町民が訪れたそうです。そして、ある町民から「あの声は、まさしくたくさんの人を救ってくれた、『天使の声』だ。」と語った人がいたことで、この教材が出来上がりました。(この教材は、埼玉県独自で作成した教材です。)

授業では、始めに私が当時体験したことを話し、次にDVDを見て、当時の状況、そして遠藤さんの生のアナウンスを聞いたあと、3人~4人のグループに分かれて、「町民の思い」「家族の思い」「遠藤さんの思い」の3つの思いについて、グループの中で話し合いをしました。最後に、当時の新聞のお互いに助け合う色々な記事を紹介し、「君たちはこれからどんな生き方をしたいか」を問い、授業を終えました。以下に、生徒の感想を紹介します。

- 私は遠藤さんのように、自分の命よりも他の人の命を優先することはできません。私は家族や大切な人だったりを選んで、たとえ仕事でもそれをほっぽって逃げると思います。遠藤さんみたいな生き方は、できなくても誰かのためになるようなことを、小さなことでも良いからしていきたいです。
- 僕は人との関わりをしっかりと生きていきたいです。人から頼られるようなしっかりとした人になりたいです。今回の授業のように、市民全員を救うことは絶対無理だと思いますが、周りの人から尊敬されるような生き方をしたいです。
- 誰かの役に立てて感謝をされる生き方をしたい。はじめから大きなことはできないと思うから、小さなこと(例えば、班の誰かが班の仕事を忘れていたら手伝うなど)をする。小さな成功を積み上げていきたいと思った。もし、誰かに良いことをしてもらったら、素直に感謝することを意識して、生きていきたいです。
- 私は今も将来も人に対して思いやりが持てる人になりたいです。人が困っているときに、一番に気づいて自分が率先してその困っている人を助けられる、そんな素敵の人になりたいです。どんなことがあっても、人に思いやりの気持ちを持つことを常に心がけながら生きていきたいです。
- 家族や友達だけでなく、誰に対しても思いやりをもって優しい人でいたいです。遠藤さんのような勇気や責任感、そして思いやりのある行動とまではできないと思うけれど、日常の中で人の気持ちを大切に考えていられる人でいたいです。それだけでなく、家族や友達などに、誇りを持ってもらえるような人でありたいと、今回の遠藤さんの話を聞いて思いました。

1年生の実践 <教材名>「傍観者でいいのか」(東京書籍 新しい道徳1) (内容項目C-1 1 公正・公平)

- ・私は今日の授業で、最初は迎えに行くというような本当に深刻ないじめではなかったけど、最後の方には暴力までされてしまって、学校に登校できなくなってしまっていて「いじめ」とは本当に怖いものだと思います。
- ・いじめはなくそうとしてもそう簡単にはなくならないんだと思いました。でもなくすように、「ダメなことはダメだ」と言えるようにしていきたいです。
- ・私は今日の授業で、Aさんが笑っているから助けなくても大丈夫かなと思ってしまうので、まずはAさんの話を聞いてあげることが大切なのかなと思いました。
- ・私のクラスであまりいじめが起きたことはないが、これから誰かいじめを犯してしまった人がいたら、Cさんのように勇気を出していじめられてしまった子に寄り添ってあげたいと思いました。

2年生の実践 A組<教材名>「あの子のランドセル」(東京書籍 新しい道徳2) (内容項目A-1 自由と責任)

- ・自分の大切なものが壊されて、壊した本人が本当に悪いと思っていて、ちゃんと反省しているのなら許してあげないといけないと自分も相手も心残りが残ると思う。これから先善悪の意識をしっかりと持って、生活していき、もしも悪いことをしてしまったら、ちゃんと謝ることも大事だと思います。
- ・時がたてば許すけど、相手が反省していなければ許さないとします。自分の行動に責任を持てる人になりたいです。
- ・過去のことについては、過去に起こった出来事なので許すことができるけれど、仲良くなった現在でいじめをされたら許すことができないと思います。一つ一つの行動に気を付けて行動していきたいと思います。
- ・人を傷つけてしまったことは取り返しがつかないし、やっではいけないことだと思います。自分がされて嫌なことは相手にもしないことがとても大切だと思います。中学生なので、自分の行動を良く見直したいと思いました。

3年生の実践 A組<教材名> (ぼくにもこんな「よいところ」がある) (東京書籍 新しい道徳3)  
(内容項目A-3 向上心 個性の伸長)

- ・やはりどこかでマイナスに考えてしまう自分がいて、誰もそんなこと思っていないのに、勝手に自分で自分を傷つけて良くないなと思いました。マイナス思考の時は、誰かに話して自分の良いところを伝えてもらったりしたらいいのかなと思いました。
- ・人の良いところを見ることも大切だと分かりました。自分の短所がこんな長所になるんだと分かり、高校での面接で長所、短所を聞かれた時にしっかり言えるようにもっと考えようと思いました。
- ・これからも相手の悪い面を見ていくのではなく、良い面も見るようにしていきたい。自分の良いところは、気づかないけれど、言われるとうれしいなと思いました。
- ・人の良いところをちゃんと見つけて、認めてあげるのも大切だと思います。人の良いところもたくさん見つけられるようにしたいです。

B組 <教材名>「東京ガスのCMから」(自作資料) (内容項目 C-1 4 家族愛 家庭生活の充実)

問い:「あなたにとって家族とはどんな存在ですか？」

- ・家族ってやっぱり大切だと思った。今思ったことを、先伸ばしにせず、今言う！ってことが大切だと思った。これからはずっと家族を大切に指定し、親孝行もたくさんしたいです。
- ・家族とこれからも仲良くしたいと思った。家族にこれから今までの分もどんどん感謝を伝えようと思いました。
- ・何気ない日常だから忘れがちだけど、大切な、代わりの無い存在として大切にしたいと思った。
- ・今こうして生活していることは当たり前のことではないことが改めて分かった。感謝はいつ言っても良いから、言えるときに言った方が後々後悔しなくて生活できると思った。

やまなみ学級の実践 3月3日に行われる、やまなみ校外学習に向けて。

- 「みんなでTPOを守り、けがなく最高の思い出になる校外学習！」と目標を決めました。個人の目標としては、
- ・周りに迷惑をかけないようにバスや電車の中では静かに過ごす。
  - ・山登りの場面では、ごみを落とさない。公共施設などを見学する場合は、騒がない、走らない。などの決まりを話し合いで決めました。